Hospital & Clinic

スポーツプログラム充実

インストラクター専属配置

五稜会 精神科デイケア

北区の五稜会病院（中島公博理事長、千丈雅徳院長・193床）は、ディケア専属のスポーツインストラクターを配置し、体を動かすことの楽しさを自然に学べるよう、多目的ホールを活用したさまざまなプログラムを企画。利用者の自主的な活動の充実につなげている。

同病院は、1999年からデイケア・病棟兼任のスポーツインストラクターを採用していたが、現在は増員を図ってデイケアに3人、病棟に2人を専属配置。2015年の改築時には、多目的ホールを4倍の330㎡に拡充した。

デイケアの1日当たり利用者数は、10～70代と年齢層の幅広い男女60～70人。「外出の機会にしたい」「人と上手く付き合えるようになりたい」「体力をつけたい」といった目的に応じ、サポートしている。

プログラムは、脳トレやパソコンをはじめ、当事者によるボランティア活動の「お助け隊」などさまざま。中でも充実しているのがスポーツプログラムで、広い多目的ホールを生かしたバレーボール、バドミントン、バスケットボール、卓球、ジムトレーニングのほか、屋外でのサッカー、ソフトボールなども行っている。

インストラクターは、身体状況に合わせて、動ける範囲でできる限りの能力を引き出せるようサポートしている。「気持ちが昂る」利用者がいた場合も、運動や動作のちょっとした変化から、いち早く対応。チームプレーを通して、協調性や社会性が自然と学べるよう、種目などを調整してプログラムを組んでいる。

運動の様子から利用者の体調や心理面の細かな変化を察知し、カンファレンスで多職種と共有することで、治療などに役立てている。

利用者58人を対象にしたアンケートでは、環境、種目・内容、スタッフ対応のいずれも8割が「満足」と回答。スポーツプログラムへの参加理由は、「体を動かすことが好き」「体力をつけたい、維持したい」「運動不足だから」が多く、卓球やミニバレーボール、ソフトボールの人気が高かったという。

プログラムの中には、サークル活動もあり、利用者が自主的にチームを作って運動する機会が増えている。今後は、さらに気軽に参加できる雰囲気づくりに努めるとともに、幅広い種目の展開や自主的な活動の支援を行っていく。

卓球など種目が多く、利用者の満足度は高い

道立旭川療育

改築、下

道は、旭川市の道立旭川肢体不自由児総合療育センター（田中肇院長・80床）の全面改築に、早ければ今月下旬にも着手する計画だ。敷地北東側のグラウンドにRC造2階建て延べ約6千㎡で建設し、2019年3月完成、同7月からの供用開始を目指す。

外観や療育環境は「家

部門、2階に一般病棟と親子棟、手術部門を配置。病床数（定員）は利用実態に合わせて一般入院45床（15床減）、親子入院15床（5床減）の計60床体制にダウンサイジングし、児童1人当たり床面積は約1・2倍となる。

一般病棟はプライバシー保護や個別支援充実を図り、4床室（5室）と